



UHB大学37期生を迎えた入学式

4月16日新たな一步を踏み出した新入生54人の令和6年度の入学式が共済ホールで行われた。

令和6年度の入学式、まず初めに鶴井亨北海道文化放送社長が「ご入学おめでとうございませう。コロナ後最多の入学人数となり嬉しく思います。北海道新聞社屋移転に伴いまして、道新ホールが閉館してしまふということでも場所を共済ホールへ変更しスタートしました。UHB大学は午前の一般教養講座と午後の選択講座の授業がありますが、この通常授業のほかにも課外活動としてバス旅行やビアガーデンなど色々な企画があります。ぜひそれらの活動を通じて学生同士の交流を深めていただきます」と思います。UHBは4月1日で開局52年となりました。企業メッセ「すべては北海道のために」の旗を掲げ、テレビ局ならではのコンテンツを通じて道民の皆さんを元気づけ北海道の発展に寄与できると目指していききたいと思ひます。



新入生、在校生の皆様、益々お元気でそしてUHB大学が繁栄することを祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます」と祝辞を述べた。



つぎに、加藤絃之学長から「新入生の皆様心より歓迎申し上げます。厚労省の調べで、認知症の発症は60歳代で1〜3%、70歳代後半で10%、80歳代で40%になり、90歳代では60%、95歳で80%と言われていふます。強いもの忘れと認知症は紙一重であり、学問上は認知症も様々に分類されています。変わり映えのない生活やストレスの多い生活では脳機能が鈍くなるといわれ、新しいことや好きなことを始めたり何かを継続することは脳の活性化につながります。これは学問上確かな事実です。認知機能検査の長谷川式簡易知能評価スケールを開発した長谷川和夫医師は新聞のコラム

で自分自身が認知症になり改めて気づいたこともあると言ひ、周りの人とコミュニケーションをとることにより不安やストレスが軽減され、頭だけでなく、体も思うように動かなくなつてきて、もどかしい思いをすることもあるが、でも毎日を楽しむ「今」を大切に生きていふと語つていました。私の信条は、自然に帰る、家族のもとに帰る、友とともに語るです。皆さんもUHB大学で学び、友を大切にしながらこれからも健康に氣を付け、逆らわず、怒らず、嘆かず、なりゆきに任せ譽れ高く生きていふきましょう。今日もよい一日だつたと思ふ日が多からんことをお祈り申し上げます」と述べた。

続いて、新入生を代表して阿部孝さんが向学の決意を述べ、在校生代表として34期生の大坂洋子さんから歓迎の言葉が述べられた。

そして、入学記念講演は北海道大学総合博物館副館長で教授の小林快次氏が「恐竜研究最前線2024」と題して最新の恐竜研究、地球の現在の実情について語つた。

「地球は過去5回の生命大量絶滅があり、現在も色々な破壊が行われています。原因は温暖化だけではなく環境破壊なのです。過去人間の誕生から地球の40%の地域を作り変えており、更には人口増加が原因と言われています。国連が行つた調査によると恐ろしいことに1970年代から2018年の約50年間で脊椎動物の世界的個体数は68%減少しています。これは3分の2の個体がなくなつていふということなのです。ユネスコの報告では、さらに100万種の生物がいなくなると言われており現在第6の大量絶滅に突入していふのです。では、食い止めるにはどうしたらよいのでしょうか？究極の解決方法として人間が削減するしかないので。しかし、人間には知能があり延命治療ができ、そうして寿命を延ばしてきました。人間には考へる力があり伝える力があります。その考へて伝える力をひとり一人が持ち、世界中の人々が地球の延命に力を注げば一日でも長くこの現在の環境を延命していくことができるのではないのでしょうか。節水節電やゴミの分別等私たちが日常でできることを未来に伝えていくことができるには人類の継続に繋がっていくのではないのでしょうか」と熱く投げかけ皆熱心に耳を傾け、入学式典は無事終了した。





新入生代表
阿部 孝
(37期生)

新たな出会いと 学びを求めての一步

日ごとに暖かくなり、もうすぐ各地から桜の便りがきこえてきそうな今日この頃です。この良き日に、私たち37期生54人の新入生は、歴史あるUHB大学の入学式を迎えることができ、心から嬉しく思います。私は、道東から札幌へ引越してきて11年目となります。友人や知人もいない札幌で、地元のソフトテニスクラブに入会し、同世代に仲間

として迎えてもらい現在も一緒に楽しんでます。また、ご縁があつて8年間働く機会があり充実した毎日を過ごしてきました。その仕事も先月初めに終わり、このあと如何しようかと考えていたところ、以前、新聞にでていたUHB大学のことを思い出し、今後のシニアライフスタイルのより良い充実と新たな出会いと学びを求めての一步を踏み出すために申し込みをしました。今までの人生の中で、命の危険がある怪我や病気を何度か経験し、家族に心配をかけてきましたが、その都度、周りの人達に励まされ、また終わりじやないよ、生きなさいといわれている気がし、現在があると思っています。人生100年といわれる時代にあつて、

人は一人では生きられません。自分に残された時間を、さまざまに人生を歩まれてきた方々との交流、そして37年を迎えたこのUHB大学の新たな出会いを大切に、自分スタイルで先ずは4年間、初心を忘れず学習を楽しみたいと思っています。青春とは年齢のある一時期をいうのではなく、心の持ちようあるといわれます。いくつも年齢を重ねても、若い気持ちを持ち続けることがチャレンジの秘訣だと思います。共に頑張りましょう。心はいつも青春です。最後になりましたが、大学の関係者の皆様には、今後のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。37期生54人の代表の挨拶とさせていただきます。



在校生代表
大坂 洋子
(34期生)

新たな発見と経験に喜びを

よく晴れたうららかな春の日にUHB大学に入学された37期生の皆さまおめでとうございます。今年度より道新ホールから共済ホールに会場が移り、寂しさもありますが新たな気持ちで皆さまと一

緒に学ばせていただく事を嬉しく思います。3年間続いたコロナ禍で一変した毎日の不安な日常もようやく昨年から落ち着いて多くの活動が可能になりました。このような感染や災害等心配なことが多くなってきた昨今、自由に出かけたり、学べることがいかに幸せか感じる毎日です。そのためには身心の健康に気をつける事も大事です。私も途中コロナの影響により一時休学させていたいただいたこともありましたが、昨年から再出発し、午前

の講座、午後からの講座で触れることのなかった話題や経験は貴重なものとなっています。また、秋の文化祭ではサークルの友人たちと一緒に参加、発表させて頂くことが今の私の目標の一つとなっています。これからも皆さんと一緒に多くの活動を通して健康でいられるように頑張つて行きましょう。スタッフの皆さまいつも暖かいお世話をし頂き心からお礼申し上げます。37期生歓迎の挨拶と致します。

令和5年度学位授与式

道新ホールでの最後の学位授与式。12年間の学びを終了した大学院名誉博士課程5人、大学院博士課程9人、大学院修士課程14人、4年間を終了した卒業生17人に卒業証書、修業証書が代表に手渡された。

学位授与式典は3月19日10時より6月末をもって閉館した道新ホールで執り行われた。初めに、加藤学長が「4年、6年、8年、12年と一定の課程を修業された皆さん誠におめでとうございます。どの大学にもないのが大学院名誉博士課程です。12年間本当にお疲れ様でした。北大でも今の学生は4年で大学を卒業しない学生が半分以上になつたとの事です。研究室に企業の方も参加し北大発ベンチャーとして社会に真剣に還元できる事を考えています。

今、私が労力、気持ちを向けてい



るのは医療裁判です。96件の医療鑑定書を書きました。誠意ある診断に臨んだつもりでも医療チームは誠実であつたかと自問自答する事もあります。日常生活で学ぶ、それ以上に家族との接点を大切に、自然を楽しみながらこの大学で学び取つただけばと思つています。本来ならお一人お一人に賞状をお渡しするのですが、今日はさよならコンサートが予定されているので代表の方に受け取つただきます」と述べた。大学院名誉博士課程25期生5人を代表して本田精一さん、大学院博士課程29期生9人を代表して松本光義さん、大学院修士課程31期生14人を代表して多田真千子さん、卒業生33期生17人を代表して柴田由紀子さんに賞状と記念品が渡された。続いて8年精勤の明円利勝さん、6年皆勤は窪田満さん、多田真千子さん、6年精勤は松岡倫子さん、4年皆勤山崎紀夫さん、4年間精勤大島博子さん、加藤義明さん、柴田由紀子さん、瀬戸利枝さんには賞状と記念品が贈られた。



4年卒業の33期生三浦和恵さんが「冬の寒さもようやく緩み、少しずつ春の色や足音を感じられる頃となりました。私達33期生は、今日の良き日に卒業を迎えることとなりました。そしてこの道新ホールでの講義も本日が最後の日。皆さん感慨深いお気持ちではないでしょうか。UHB大学の運営に携わる皆様、午後の講師の皆様、心から感謝申し上げます。そしてこの大学で出会った仲間たち、この出会いに感謝し大切にしていきたいと思えます。私は2019年に職をリタイアし、新たな気持ちで一日、一日を有意義に自分の歩幅で、しかし社会との関わりもなくしてはいけなれないと思いついていました。新聞でUHB大学を知り、迷わず生涯学習の場として入学を決断したのが2020年です。残念なことにはコロナ禍のスタートでもありません。誰もが手探りで不安な世界

が長きに渡りました。そんな中で夏から大学を開講していただけた事、改めて感謝申し上げます。途中、余儀なく休講となったこともありましたが、学びの場が開かれていることは私の励みになりました。多岐にわたる内容の教養講座では、頭の中にマークが飛び交う日、なるほど！と目からうろこの日、どうしてもまぶたが仲良くなる日、柔らかな音楽に包まれる日…。私の脳内活性の時間です。選択講座では、温かく優しい仲間たちの中で、身体に程良い刺激と心に穏やかな時間が流れます。仲間とのたわいのない会話が自然に笑顔を作ります。パークゴルフ同好会にも参加させて頂いています。まったくの初心者である私にも、諸先輩方が根気よく親切丁寧に指導して下さいました。楽しい時間を共有できたと思っています。この四年間はコロナ禍ゆえに、社会全体が揺らめきつつ試行錯誤を繰り返しながら歩んできたように思います。その不安定な中で当大学での学びの時間は尊い時間でした。



学びの場があること、仲間との出会い、交流が今こうして穏やかな日々を過ごしている一因となりました。「健康づくり、仲間づくり、生きがいづくり」よく耳にする言葉ですが、そう簡単ではありません。これからも皆さんと共に学びながら、自分の速度で「健康づくり、仲間づくり、生きがいづくり」を目指したいと思えます。最後になりましたが、本年は能登半島での大地震から始まり、世界での争いも終焉の見通しがわからない悲しい日々が続いています。小さな一歩かもしれませんが、改めて自分に来る事、やるべき事を後回しにせずに行動したいと思えます。一日でも早く平和と笑顔が広がる時が来ることを祈りつつ、UHB大学の明るい未来と、皆様のご健康ご多幸を祈念し、33期生卒業の挨拶とさせていただきます。

「エスコン×イタリアン」
日帰りバスツアー

7月26日学生37人、事務局2人でバス旅行を開催した。エスコンフィールド北海道のスタジアムツアーとイタリアンレストランでの昼食がメインとなる行程だ。出発後、40分ほどであつという間にエスコンフィールド北海道に到着。球場敷地内はとにかく広く徒歩での移動距離も長いが圧巻のスタジアムと隣接する施設などの景観も楽しむことが出来た。いよいよエスコンフィールド北海道の内部へ潜入。ファイターズガールの解説付きでグラウンド内やダグ

アウトなどを見学。選手が座るベンチや新庄監督専用の椅子にも座ることが出来、各々記念撮影を行っていた。エスコンフィールド北海道を後に続いてはいわみざわ公園内にあるイタリアンレストランPIZZERIA Lucchiへ。薪窯で焼き上げたピザなど全5品のコース料理に皆さん満足していただいた様子。小林酒造 北の錦記念館、道の駅マオイの丘公園で旬の野菜など買い物を楽しんで今回のツアーは終了。「違う選択講座の方との交流もできて楽しかった」などのお言葉をいただき次はどこに行こうか、事務局一同頭を悩ませています。



同好会活動

パークゴルフ同好会

4月23日ギャラリー大通美術館2階会議室において定期総会が開催された。令和5年度の活動報告や年間皆勤賞11人やシーズン賞が報告された。また、収支決算報告、会計監査報告がされた。続いて令和6年度の活動計画、収支予算案が報告承認された。年間6回の月例が予定されている。今年度は11人の新会員が入会し、総勢34人と賑やかなスタートとなった。

男性			女性		
優勝	竹下 正昭 (UU会員)	スコア105 (HC 0)	優勝	笹原 純子 (UU会員)	スコア117 (HC 0)
準優勝	山下 貢 (30期生)	スコア111 (HC 0)	準優勝	及川 靖江 (UU会員)	スコア122 (HC 0)
第3位	尾崎 耕策 (UU会員)	スコア112 (HC 0)	第3位	保木 和子 (UU会員)	スコア124 (HC 0)
第4位	西尾 敏明 (28期生)	スコア117 (HC 0)	第4位	瀬戸 利枝 (33期生)	スコア130 (HC 0)
第5位	荻原 博 (UU会員)	スコア118 (HC 0)	第5位	三浦 和恵 (33期生)	スコア139 (HC 0)

※6月24日に輪厚国際パークゴルフコースで予定されていた6月例会は雨天のため中止となった。

男性			女性		
優勝	木田 重信 (37期生)	スコア114 (HC 0)	優勝	笹原 純子 (UU会員)	スコア124 (HC 10)
準優勝	山下 貢 (30期生)	スコア115 (HC 7)	準優勝	保木 和子 (UU会員)	スコア133 (HC 5)
第3位	荻原 博 (UU会員)	スコア117 (HC 1)	第3位	牧野 文子 (35期生)	スコア140 (HC 0)
第4位	佐野 博昭 (UU会員)	スコア120 (HC 0)	第4位	瀬戸 利枝 (33期生)	スコア143 (HC 3)
第5位	竹下 正昭 (UU会員)	スコア121 (HC 10)	第5位	大島 博子 (33期生)	スコア144 (HC 0)

ゴルフ同好会

4月16日ギャラリー大通美術館2階会議室において27人が出席し令和6年度の総会を開催。令和5年度の活動報告、続いて令和6年度の活動計画案が発表された。令和5年度の決算書が報告され承認を受けた。続いて令和6年度の予算案が報告されこれも会員の承認を受けた。新年度の役員選出に続き、3人の新会員が紹介され会員30人でのスタートとなった。7回のコンペと10月のオープンコンペを入れ8回が予定されている。

第4回コンペ(7月10日) 札幌リージェントゴルフ倶楽部 新コース	第3回コンペ(6月28日) 羊ヶ丘カントリークラブ	第2回コンペ(6月5日) 札幌エルムカントリークラブ 西コース	第1回コンペ(5月8日) 札幌リージェントゴルフ倶楽部 旧コース
優勝 及川 隆夫 (UU会員) N 69 H 18	優勝 大畑 順市 (UU会員) N 71 H 32	優勝 北本 武雄 (19期生) N 68 H 24	優勝 佐々木誠一 (UU会員) N 73 H 24
準優勝 大畑 順市 (UU会員) N 70 H 25	準優勝 種田 昌介 (UU会員) N 73 H 25	準優勝 八戸 洋 (36期生) N 68 H 24	準優勝 櫻井 孝 (UU会員) N 76 H 22
第3位 鹿内 亨 (36期生) N 70 H 30	第3位 横須賀英司 (37期生) N 74 H 20	第3位 鹿内 亨 (36期生) N 66 H 36	第3位 大畑 順市 (UU会員) N 77 H 32
第4位 菊地 栄一 (33期生) N 72 H 8	第4位 片山 英夫 (30期生) N 76 H 34	第4位 大畑 順市 (UU会員) N 73 H 32	第4位 伊藤 正夫 (UU会員) N 78 H 13
第5位 鈴木 仁 (37期生) N 74 H 28	第5位 平馬 博文 (35期生) N 78 H 32	第5位 佐々木誠一 (UU会員) N 75 H 19	第5位 片山 英夫 (30期生) N 78 H 34

ゴルフ同好会の20年を振り返る

佐々木 誠一

同好会の会員歴が20年を超え、自分にとつてのゴルフ人生の約半分近くを同好会の皆さんと過ごしたことになります。2004年当時は会員数が52人という大所帯でした。その頃のゴルフ界はバブル崩壊の余波を受け、倒産したり再編されたりした時代でしたが、団塊の世代とそれ以上の高齢者の皆さんによつて何とか支えられてきたのではないかと思います。しかしそれ以降、松山英樹、宮里藍らの出現によりまたゴルフ人気が高まりつつあります。2024年の同好会の会員は30人と当時からみると減りましたが、その中に女性が5人と90歳にならんとする会員2人もいて、年齢にも幅があり面白い同好会になっています。

世間的にはゴルフは一種の贅沢なスポーツと思われていますが、それを割り引いて考慮してもゴルフというのは奥が深く、人のせいにはできない自己完結型のスポーツで高齢者向きといえるでしょう。

会員の中にはハンディキャップがシングルからそうでない方もいて、腕前はさまざま。年8回のコンペでは、各人のスコアをベースに毎年ハンディキャップを見直し算定し公平性を期し、誰でも優勝できるチャンスがあり、やりがいがあります。ゴルフの好きな紳士、淑女の皆さんこの同好会に入りゴルフをエンジョイしませんか。

おめでと

★第71回写真道展(北海道新聞社、北海道写真協会主催)において第一部自由で北海道知事賞を26期生小林久勝さんが受賞されました。

★第65回北海道道展(北海道新聞社主催、道書道連盟、道後援)第4部詩文書において小比賀秋水先生が秀作を受賞されました。

★第52回北海道陶芸展(北海道陶芸協会主催、北海道新聞社共催)において、大石俊久先生が土泡賞を受賞されました。

★第42回北海道シニア陶芸展(北海道陶芸協会主催)において、28期生西尾敏明さんがSTV賞を受賞、30期生の岩田浩子さんが会友賞、30期生菊地好江さんが、32期生川岸しのぶさんが奨励賞を受賞。35期生泉敏博さん、36期生熊谷多佳子さん、36期生長谷川幸江さんが新人賞を受賞されました。

編集後記

☆長年一般教養講座の会場として定着していた道新ホールが6月末で閉館、令和6年度4月からは共済ホールで37期生を迎え新年度がスタートしました。

また、10月の文化祭は22日が共済ホールで舞台発表、22日から27日までギャラリー大通美術館で作品発表を開催します。

発行
uhb 大学
事務局
札幌市中央区
北1条西14丁目
北海道文化放送内
(011)214-5225